

挑戦 ～翔ける思い～

組織体制の構築とリーダーシップ

「リーダーシップ」と「フォロワーシップ」の必要性



中村社長

リーダーの必要性

現在、自社の課題の1つに組織体制の構築が挙げられます。

組織体制を構築していくためには、リーダーとなる存在とリーダーをフォローする存在が必要となってきます。

そこで今回は、リーダーシップと（※）フォロワーシップについてお話しします。

ナビゲーターとして

実際にリーダーとなる為には、「どうすれば会社が目指すべき目標に進んでいけるのか」を考え、尚且つ、その考えに基づいて行動をとっていかなければなりません。

例えば、リーダーの方が全て自分で対応してしまい、自分だけが理解出来ているような状態では人は育ちません。逆に指示

だけを出し、行動に移さないようであっては、統制を図ることが出来ません。

また、時にはリーダーの方が率先して作業を行なう場面もありますが、単なる作業という位置付けではなく、周りの方に「何かを伝える」というスタンスで臨まなければなりません。リーダーシップを発揮するということは必ずしも自分が対応するということではないのです。

自分だけでなく、周りの方も会社が目指すべき方向へと導いていく役割が求められるのです。

思いや考えに共感

一方で、リーダーがどれだけ頑張っても、周りの方が思いや考えに共感し、フォロワーシップを発揮していかなければ良い結果は生まれません。

必ずしも全員がリーダーになるわけではない中で、各々が「自分は企業の中でどのような役割を担い、何を重点的に考え・取り組まなければならないか」を把握することが必要です。

例えば、社長という立場でありながら、日々の作業に追われ

目先のことばかりに対応しては、企業としての先行きはとも不安定なものになってしまいます。逆に、日々の作業に従事すべき役割の方が、長期的なことばかりに視点が向き、目先の対応を疎かにしているは本末転倒な話です。

全員が企業の理念や目標を共通理解し、その上で各々の役割に応じた取り組みを展開していく。そうすれば、自ずと組織体制も固まり、企業・個人目標を実現させていくことが出来るのです。

挑戦から得られるもの

自社の企業理念には「挑戦」というテーマが根底にあります。「すぐれたリーダー技術を追求める」為に、様々なことに挑戦して欲しいという思いが込められているのです。

そして、リーダーシップもまた、「挑戦」することで色々なことを体験し、知識や経験として蓄えていくことで初めて身に付いていくものです。

ただ、上手く対応出来ることだけが成果ではありません。失敗して初めて分かることもあります。失敗を経験したからこそ、次は気を付けようという意識も高まり、同じミスを繰り返さな

いようになります。

また、当然上手く対応出来れば自分にとっての自信にもつながり、更なるチャレンジ精神も湧いてくると思います。

ただ、挑戦をしなければ自信を得ることも、気付きを得ることも出来ません。

だからこそ、皆さんには、「失敗を恐れず率先して色々なことに挑戦して欲しい」

と思っています。

常に高い目標を目指し

将来的には、1人ひとりが「自社にとって本当に必要なことは何か」を考え、議論しあえるような環境にしていきたいと考えています。その為にも、1人ひとりが様々なことに挑戦し、自分自身の考えを持つようにして欲しいと思います。

そして、「自分の力を信じ、常に高い目標を目指す」という気持ちを持って、日々の活動に取り組んでいきましよう。

※フォロワーシップとは

「上司との信頼関係を築きながら、上司の指導力や判断力を補完し、貢献力と批判力で組織の目的・目標を達成していくことをいいます。」